

天草方言 語彙数が豊富

古事記 最古の歴史書（ふたご）「（あまのふたや）両児島、亦名謂天両屋」 天草（あま）=海土の民草
744年（天平16）**続日本記**「肥後国天草」
885年（仁和元）**和名類聚抄** 肥後国安万久佐郡 波太天草志岐恵家高屋
海の道 海上交通が主流 奈良・平安時代（7～8世紀）外国船の漂着
江戸時代の**往還**（富岡往還 宮地往還 西目往還 深海往還）
1898明治31年（120年前）人力車43台 荷馬車2台 客馬車2台
1906明治39年（112年前）**本渡富岡線**が開通 自転車7台
1910明治43年（108年前）**本渡～大浦線**開通
1912大正元年（106年前）**本渡牛深線** 開通
1915大正4年（103年前）天草に初めて自動車 ※迫が違えばことばが違う
※ 牛深ハイヤは日本のハイヤ節の源流 民謡研究家：竹内勉
1591年～1597年（427年前）天草学林
日本最初の活版印刷によるローマ字本（47種12種現存）
天草本イソップ物語・平家物語（大英博物館）
安土桃山時代の**都ことば**（標準語）：京都方言
古語や文語調のことば 多数残存 **日ポ辞書**（外来語）
1566年（452年前）ルイスアルメイダによりキリスト教伝来
外国文化の流入（南蛮：ポルトガル・スペイン・イタリア・オランダ・イギリス）
（南京：中国・東南アジア）
1582年～1590年 **天正少年遣欧使節団** 12才～14才
伊藤マンショ・千々石ミゲル・中浦ジュリアン・原マルチノ
1587年～1614年 **コレジオ**（大神学校）・**セミナリオ**（初等教育）
古語や文語調のことば 多数残存 **日ポ辞書**（外来語）
1613年 徳川秀忠：キリシタン禁止令（伝来より47年）
1637年：寛永14（380年前）天草島原の乱（一揆） 人口半減：13,000人弱
1639寛永16年～1864嘉永7年（225年間）**鎖国**
1641年：寛永18 **天領天草代官 鈴木重成**
半世紀にわたるキリスト教 教会→仏教寺院
曹洞宗：13 浄土宗：7 真言宗：1 神社2 寺社領300石（経済効果）
社寺仏閣の建設に携わる職人 僧侶
1642年 **移民政策** 西国以南（関西中四国）
薩摩：155人 肥後：170人 西国諸藩：825人 浪人：大名の転封（お国替）
集団移民 都城（薩摩藩）→佐伊津
流人の島
1692年 **高野山僧徒** 140人天草へ配流
大浦九品寺・志岐国照寺・高浜隣峰寺
1804年文化元年：140,446人 **人口爆発**（乱後167年で10倍）
1950年（昭和25）：240,750人
寺子屋 私塾 高識字率 1690年 高浜隣峰寺の僧侶祐遍覚が私塾
1760年（258年前）御領に私塾〔正論社〕・1818年：栖本私塾〔学半舎〕
1856年：本町東向寺〔聴松堂〕・1830年：町山口〔徳田屋塾〕
1833年：河浦信福寺〔臨川塾〕：定舜上人・1862年：本戸馬場〔集義館〕
1863年：町山口〔誠文堂〕・1867年：明德寺〔文学塾〕
1872明治5年（146年前）：学制・1866明治19年（132年前）：小学校令

天草方言 「じゃる」と「じゃか」(肯定と否定)

じゃい じゃいがや そうだ その通り 本当だ 確かだ 《牛深》
じゃいけん そうだから それ故に
じゃいしえな そうだから 《佐伊津》
じゃいじゃい そうだ (協調) 《牛深》
じゃいちやがや そうなのだ 《牛深》
じゃいて そうなのに 《佐伊津》
じゃいで そうだから 《牛深》
じゃいと そうだ その通り 《牛深》
じゃいろ ではあるか そうだろうか そうなのか
じゃか そうではない 違う 嘘だ (否定)
じゃか いや そうではないのか 違うのか
じゃかがや 違うではないか 嘘ではないか 《牛深》
じゃかごたる そうではないようだ
じゃかしえな 違うから 《佐伊津》
じゃかじゃ 違うよね
じゃかじゃか 嘘だ 違う (強調)
じゃかじゃっか …きゃ …け そうではないだろう 違うではないか
じゃかせんや 違うから 《二江》
じゃかた じゃかて 違うではないか 違うのに
じゃかちさい 違うのだよ
じゃかちされば 違うといったら違うよ
じゃかちな じゃかちや 違うのですか
じゃかっかい じゃかっかな じゃかっきゃ …け 違いますか
じゃかっさい じゃかっさな じゃかっさね 違うのだよ
じゃかっじゃ じゃっじゃん 違うぞ 違うのだぞ
じゃかっじゃいろ 違うらしい
じゃかっじゃか …きゃ …け 違うでのではないか
じゃかっじゃって じゃかて じゃかるとに 違うのに
じゃかっじゃもね じゃかっじゃもん 違うのだもの
じゃかっじゃろう そうではないでしょう
じゃかっじゃんば 違うのだもの 《牛深》
じゃかっぞ じゃかべ 違うぞ 違うのだぞ
じゃかった 違った 嘘だった
じゃかったっちや 違っていても 嘘でも
じゃかっちやがや 違うのだよ 《牛深》
じゃかっちゆかい …きゃ …け そうではないだろうか
じゃかっちゆた 違うそうだ 嘘だそうだ
じゃかっど 違うでしょう
じゃかっばい じゃかっばえ 違うぞ 違うのだぞ
じゃかっばい じゃかっばな じゃかっぺー 《佐伊津》
じゃかて 違うでのに
じゃかてさい 違うというのに
じゃかと そうではない 違うのだ 嘘だ
じゃかとて 違うでの 《鬼池》
じゃかるとに 違うのに
じゃかともとった 違うと思っていた

じゃかとん 違うが
じゃかばい じゃかベ 違うようだ
じゃかはず 違う筈だ
じゃかばって 違うようだけど
じゃかもね そうではないではないか 嘘だろう
じゃかもん じゃかもん そうではないよ 違うよ
じゃかもんじゃって そうでないから
じゃがや そうだ 本当だ 確かだ《牛深》
じゃからじゃま 当然そうですよ その筈ですよ
じゃからんば そうでなかったら
じゃかりいろ そうではないではないだろうか
じゃかれば そうでなければ
じゃかろう そうではないでしょう 違うではないか
じゃかろばって そうではないでしょうけど 違うかもしれないが
じゃかもん 違うでしょう
じゃかな じゃかね 違うのですか
じゃかなろ じゃかなろば 違うのであれば
じゃけん であるからして その通りだから
じゃっじゃっ そうだ 本当だ 確かだ 正しい そうだの強調
じゃっじゃか そうではないか
じゃっじゃが じゃっじゃが そうですよ 本当なんですよ
じゃっじゃって そうだけど 本当だけど 正しいのに
じゃっじゃもね じゃっじゃもん そうなのだ
じゃっじゃろう じゃっじゃろもん そうでしょう
じゃっちゃん そうですよ 本当なんですよ
じゃって であるのに そうなのに
じゃって であるからして であるから だから
じゃっと 確かにそうです 相違ありません
じゃっと? 確かですか 本当ですか
じゃっと じゃっとが そうでしょう
じゃっとかい …かな …きゃ …け …な …ね …や そうかい
じゃっとさい じゃっとさな そうなんだよ その通りだよ
じゃっとじゃっと そうだの強調
じゃっとた そうですよ その通りですよ
じゃっとちゅうた じゃっとちゅた (…と言う話だ) 本当だ そうだ
じゃっとな じゃっとね そうだね
じゃっとばい じゃっとばえ …べ …や …わい そうですよ そうだよ
じゃっと・じゃっとが であるか 違いはないだろう
じゃっともん 違いはないと思うよ 本当だろう
じゃばって じゃるばって であるけど そうだけど だけど
じゃもね・じゃもん 本当なものではないか だろう でしょう
じゃらいた じゃらった そうであった
じゃらした そうであられた
じゃらじゃねー じゃらじゃま 本当ですよ 当然ですよ
じゃらす そうであられる
じゃらっそうばって そうであられるだろうが
じゃりいろ 本当だろうか 確かだろうか
じゃりゃーじゃっと そうではある

じゃる じゃある である そうだ その通り 本当だ 確かだ（肯定）
じゃるかい じゃるきゃ じゃるけ そうですか 本当か
じゃるけん じゃるせん だから
じゃるごたる 正しいごとくある 本当のようだ
じゃるしえな 《佐伊津》
じゃるっぱな じゃるっぺ そうだよ《佐伊津》
じゃるじゃる そうだの協調
じゃるせん そうだから
じゃるせんや そうだから《二江》
じゃるばって そうだけど
じゃれば そうであれば
じゃろう 本当だと思う
じゃろかい じゃろきゃ じゃろけ じゃろに であろうか 本当だろうか
じゃろばって そうだろうけど
じゃろもん 本当だろうよ そうだと思うよ
じゃわい です である《天草町》
じゃん じゃんば そうだ 本当だ 正しい 確かだ（断定）
じゃんなした そうであられた
じゃんなす そうであられる
じゃんのう そうだね
じゃんば そうだ《牛深》

落ちる

あえる あゆる いっちゃえる いっちやくる いっちゃける いっちやゆる
うっちやいくる うっちやいける うっちやえる
うっちやくる うっちやける うっちやゆる おっこつる おっこてる
おっちやくる おっちやける おつる おてる きゃーこくる きゃーこける
こくる こける さでこくる さでこける ちゃーくる ちゃーける
ちやいくる ちやいける ちやえる ちやくる ちやくる ちやける ちやゆる
つこくる つこける つっこくる つっこける つわえる つわゆる
ひっちやえる ひっちやくる ひっちやける ひっちやゆる 43
「カミナリさまンおてらいた」（落雷した） 「熟柿んあえた」（落果）

落ちる《牛深》

あゆい いっちやゆい おっちやくい おつひ こくい
ちゃーくい ちゃくい つこくい つっぱる ひっちやいくい ひっちやくい
「あおー 海い つっぱったっじゃがや」

食べる〔ばびぷぺぼ〕 《高浜》

ば 「ぱんかなあ」（食べませんか）
び 「びいなっせ」（お召し上がりください）
ぷ 「ぷうてみる」（食べてみてください）
ぺ 「ペえな」（食べてよ）
ぼ 「ぼうかい」（食べようか）
「飯やぱん パンならぷう」（ご飯は食べない。パンなら食べる）
「あっとうしてびいえん」（熱くて食べられない）
「早よペえ」（急いで食べてよ）・「後からぼう」（後で食べるよ）

くわ くい かう くえ くお

くわんね（食べないか）・くわん（食べない）
くいなっせ（食べてください）・くいくいさるくな（食べ歩きするな）
くうてしまえ（食べ残すな）
柿食うけえ（柿は食べますか）・くお（食べる）《五和》
さっさくえ（早く食べろ）・くおだ（食べよう）
せっくわんくわんかん（赤飯を食べませんか）《島子》
刺身なめなっせ（刺身食べてください）《牛深》
刺身かめなあ（刺身食べてよ）《御所浦》
餅かまんかい（餅は食べませんか）
こいもんかまんかん（香の物食べませんか）《芥北》
おっばいしゅうる（乳を吸う）
漬する（漬を吸い込む）
骨の髄までしゃぶる・しゅわぶる（啜り込む）
飴なむる（飴を舐める）
指ねぶる（指を舐める）

いたちかう（行ってきます）《佐伊津》 ※イタチは食べません
いたちはちかう（ついでに行ってくる） ※蜂は食べません
さるくったあ（歩き回ったよ）《佐伊津》 ※猿は食べません迷惑

色も色々

あおあおなる【青々】 青味が増す
あおがり【青刈り】青田刈り 未熟な稲を刈り取る
あおくさか 古語【青臭し】 青草の匂い 生しい ②未熟
あおざむる【青褪め】 顔色が無くなる 血色が無い
あおすったん 熟れていない果実 顔色の悪い人
あおた【青田】 実らない稲田 ※青田と我が子を誉めるはバカのうち
あおた買い・青田刈り ②企業が人材確保のため他社より早く学生の採用を確定する
あおたるる【青垂れ】 顔色が青白い
あおてんじょう【青天井】 青空 晴天 ②取引相場で上限がないこと
あおな【青菜】あおやしゅー 野菜 葉野菜 ※青菜湯搔きを男に見せるな
あおなった 青くなった ②肝を潰した
あおに【青丹】 岩緑青 緑色の顔料の土 青丹よし奈良の都は咲く花の匂うがごとく今盛りなり枕詞
あおにしゃ【青二才】 未熟者 若造 若輩
あおばな【青漬】 青みがかった漬 タンパク質欠乏症鼻炎 ※黄漬はウィールス
あおびゅうたん【青瓢箪】 顔色の青白い人
あおもん【青物】 アジ、サバ、ハマチ、ブリなど背中が青い魚 ②野菜 葉野菜
あか 赤ちゃん 赤子
あかがみ【赤紙】 召集令状
あかしんによ【赤信女】 未亡人 ※亡夫の墓石に生存中の妻の戒名を刻む風習
あかのたにん【赤の他人】 何の関わりもない人
あかっぱじ 古語【赤恥】 あかはじきゃーた 人前で恥をかいた
あかばちかやる 顔色が赤く火照る 赤面する
あかべー あかんべー【赤目】 古語【あかすかべい】 拒否表現の所作 ※嫌なこった
あだじろか【阿娜白い】 なまめかしい白さ

きんなかこえ【黄色い声】 かん高い声
 くろっすー【黒煤病】 果実の伝染病
 しらーしらなる 夜が明ける
 しらーっとして 白を切って 知らぬ振りして
 しらかす 古語【白かす】 古語【白化け】
 しらきる 知らぬ振りを通す 無関係を装う
 しらじらしか【白々しい】 見え透いている 興ざめる
 しらっちゃくる 色あせて白くなる
 しらた 樹木の表皮近くで白い部分
 しらふ 素面 酔っていない
 せいてん【青天】 晴天 ※「青天の霹靂」：青空に突然起こる雷 思い掛けない事
 件が起る
 せきはん せっくわん【赤飯】 おこわ
 せきらら【赤裸々】 丸裸 ②包み隠しが無い あからさま
 どすぐろか 毒々しく黒い 光沢が無く黒い
 はらぐろか【腹黒い】 根性が悪い 悪巧みや魂胆がある ②サヨリ
 まっかなうそ【真赤な嘘】 明らかなき嘘 全くの嘘

痛さにも程がある

あ痛し 古語【嗚呼痛し】 あ痛由し 痛い時に発する感嘆語
 頭痛 うす頭ン痛か 打ち割る如たる がんがんする ずっきずっきする
 腹痛 腹ン塞く しくしくする じぐじぐする ※腸閉塞
 陣痛 子産ち腹ン塞く ※膨満感
 腰痛 腰ン疼く
 足痛 足ン棒の如たる 足ン突っ張る 烏曲がりする こむらがりする 筋ン攣る
 神経痛 神経痛の噛ん付いた リューマチの挟る
 歯痛 歯ノすびく 歯ノきりきりする
 肩痛 肩ン挟る 据錐る 肩ンつつくわんぐるごたる（引抜く）
 輝 輝ノつつく ずきずきする
 火傷・日焼け ひでる ひりひりする ぴりぴりする
 霜焼け 痛痒か がかかする 火が付く

来（き・く・け・こ）

来たっちゃ来んちゃよか、来るなら来ー
 （来ても来なくても構わないけど、来たいなら来るといいよ）

古語辞典に見られる天草方言

悪性【あくしゃ】 打つ 迷惑する 辟易する 厄介
 徒事 徒する 悪戯する 邪魔する 徒銀 徒口 徒花
 徒【かち】 歩く 徒歩 徒荷（かちに）：手荷物 徒渡（かちわたり）
 徒然 移徒 徒歩 徒然 移徒
 借し【あたらしか】 惜しい 勿体ない （文語表現）
 落ゆ【あゆる】 落果 ②落雷 ③降雨 ④汚れが落ちる （文語表現）
 塩梅【あんびゃー】 按配 塩加減 ②程合い ③体調
 言うともなし【いうともなか】 言いたくもない （文語表現）
 見ともなし【みたむなか】 見たくもない （文語表現）
 行き掛け【いきがけ】 行く途中

一【**いっち**】 一番 一等 最も 最高 「いっち良か」
入り目【**いりめ**】 経費 出費 費用植え
植ゆる【**うえる**】 (文語表現)
潤ひ【**うりー**】 慈雨
己【**うな**】 己 自分 ②相手呼び捨てにする卑語
己 汝【**うん**】 〔君〕の(卑語) 貴様 お前 手前
己【**おどれ** おどりゃ】
得知れぬ【**えしれん**】 得体知れない 至らない (文語表現)
肢【**えだ**】 四肢 手足 肩
肢骨【**えだぼね**】 手足の骨 肩の骨
横道【**おうどか**】 横着で乱暴
恐【**おと**】 ろしか (文語表現)《京》
御前【**おまえ**】 神仏や貴人の前 ②仏間の前 ③あなた
喚く【**おめく**】 大声で叫ぶ
御入在(おりゃ)る【**おらる**】 《京》 「居る」の上代敬語 在宅
御坐(おは)す【**おらす**】 《京》 「居る」の上代敬語 在宅
囲ふ【**かくう** **かこう**】 匿(かくま)う 隠す 貯蔵 ②妾にする
挿頭【**かざし** **かざし餅**】 飾り餅 ②餡なしの餅
傾(かぶ)く【**かぶく**】《日ボ》 傾く ②異様な服装 ③歌舞伎の語源
葱(き)【**ともじ**】 ※(一文字) 葱 分葱(わけぎ) 小葱
利くる【**きける**】 (文語表現)
気散じ【**きさんか**】 構わない ②呑気
肝煎り【**きもいり**】 仲介人 世話役
愚らし 暗し【**ぐうらしか**】 哀れだ 可哀相だ
草臥れ【**くたぶれ**】 疲れ
蛇【**くちなわ**】 朽ち縄 蛇
喰らう【**くらう**】 飲食する ②身に受ける
暗隅【**くらすみ**】 暗がり 暗いところ
煙【**けぶり**】 (文語表現)
公道(こうたう)【**こうとか**】 地味 質素 ②身持ちがよい
寄生虫【**ごうな**】 郷無し 宿借り ヤドカリ
擦(こそぐ)る【**こちょぐる**】 擦(くすぐ)る
五体【**ごちゃ** **ごてえ**】 胴体と両手両足(四肢) ②背中
御馳走【**ごっつお**】《梵語》 振舞い もてなし
特負(こってい)【**こって牛**】 牡牛 役牛
鷺足【**さがし**】 下げ足 ②険(さか)し 竹馬
ささほうさ【**ささふうさ**】 ごったがえし
簾(ささら)【**しゃーら**】 竹束子(たわし) ②尖ったもの 刺(さし)
早苗饗【**さなぼり**】 田植え後の小宴
新【**さら**】 新品 初下ろし ②処女
去来【**さるく**】 歩き回る 散歩する 彷徨(さまよ)う 徘徊
舳板【**さんぱん**】 舳(はしけ) 岸と本船を結ぶ小型の渡し舟
塩鹹(しおはゆ)し【**しおはいか**】 塩っばい 塩辛い
萎らし【**しおらしか**】 健気(けなげ)だ 控え目
漉(したむ)む【**すたむる**】 水滴を切る 水気を滴(したた)らす
竹篋(しっぺい)【**すっぺ**】 禅家の修行に使う竹製の法具 ②爪弾き
忍ぶ【**しのぶる**】 包み隠す 始末する 片づける
しはぶる【**しわぶる**】 舐めて吸い取る

辛勞【しんどか】 疲れ 心勞 精神疲労
神變【じんべんか】 不思議な神の力 ②殊勝だ 奇特だ
蟻(すがり)【すがね】 蟻
せうことなし【しょうことなし】 仕方なく 止むを得ず 嫌々で (文語表現)
接待【せってやー】 施し お持て成し
せびらかす【せびらかす】《京》 からかう ひやかす
先繰【せんぐり】 順番に 次第に
筈(そうけ) 箒筥【しょうけ】 竹製の箒(ざる)
そそくる【そそくる こそくる】 弄ぶ ②修繕 修理する
そ引く【そびく】 無理に引っ張る しょっぴく
嫉(そね)む【しょのむ】 嫉妬する 妬(ねた)む 羨(うらや)む
手植え 田植え【たうえ】 稲苗を植え付ける
貯う【たくう たくわえる たくわゆる】 貯蔵する
哮る【たける】 うめく 唸る 声を出して苦しむ
徒事【ただごと】 普通でないこと 尋常でないこと
祟り【たたり】 呪い 悪事の報い 災い
達者【たっしゃか】 壮健 元気
魂消る【たまがる】 驚く びっくりする
足り臭し【たりくさか】 足りそうにない
乳繰る【ちちくる】 弄ぶ ②男女が戯れ合う
ちゃちゃくる【ちゃちゃくる】 男女がじゃれ合う
重畳【ちょうじょう】 有難う
ちよがらかす【ちよこらかす】 嘲奔 冷やかす からかう
猪口オ【ちょこざい】 小癩な 生意気
番【つがい】 蝶番 繋ぎ目 関節 ②動物の雌雄
術無し【つつなか】 切ない 苦しい
燕【つばくらめ】 燕
芽花【つばな】 茅の花
費え【つうえか】 費用 支出 ②無駄
連連【つらら】 氷柱 垂氷
徒然【づれづれ】 することもなく 退屈
手水【ちょうず】 洗面所 便所
手掛【てかけ】 妾 第二夫人
出来合ひ【できやー】 既製品
手為【てし】 自分でする ②手製 手作り
手塩皿【てしおざら】 小皿
手遊び【てずさみ】 手慰み
手転業【ててんご てまんご】 手ずさび 手なぐさみ
手拭い【てぬぐい てんげ】 タオル
伝供【でんぐ】 神仏へ手渡して供物を供える
伝供取り【てんぐどり】 手渡して物を運ぶ
天眼通【てんげんつう】 天眼で見透かす力
天道【てんとうさま】 天の神 天日 太陽
転婆【てんば】 お転婆 陽気で活発な娘
退く【どく】 退く 場所を移す
得心【とくしん】 納得
同志【とし】 同志 友達 友人
徒燃【とぜん とぜんなか】 退屈 ②寂しい 心細い

とぼ 点す【とぼす】 とも 点す 点灯する
鈍し【とろか】 鈍い slow 鈍感
泥塊【どろくれ】 泥の塊
十【とを】 十
何かな欲し【なにかなほしか】 何か食べたい
難儀【なんぎ】 難渋 苦勞
何様【なんさま】 何しろ 如何にも 兎に角
難渋【なんじゅう】 悩み苦しんでいる
寝る【ぬる】 寝る 横になる
糞器【はこ】 清箱 便器 ②大便
娑婆羅【ばさらか】 乱暴 粗雑
はだかる はたかる【はたがる】 両足を広げる
果て行く【はってく】 行ってしまふ 帰る ②死ぬ
掃く【はわく】 帚で掃く
食み【はみ】 食料 飼料
日暮らし【ひぐらし へぐらし】 終日 残業 ②生業
孫生ゆ【ひこはゆる】 切り株から発芽する ②長く延びる
陳者【ひねもん】 老熟者 ②不良品 中古品
日傭【ひゆう】 日雇いの賃金
日和【ひより】 天気 ②なりゆき
兵糧【ひょうろう】 食物 餌
鬢頬【びんづら】 頬 ほっぺた
分限者【ぶげんしゃ ぶげんしゃどん】 金持ち 富豪
普請【ふしん】 土木建築をする ②禅寺の工事
布施【ふせ】 仏僧に施す物品や金銭
日暮らし【へぐらし】 夕暮れまでの残業 ②終日
頬術【ほうげた】 頬骨 頬
放埒【ほうらつ】 無駄 おびただしい
ほたゆ【ほたゆる】 戯れる 騒ぐ
潤ぶ【ほとぶる】 水を含んでふやける
火めく【ほめく】 蒸し暑い
煩惱【ぼんのう】 《梵語》 心身を迷わす欲望や迷い
間尺【ましゃく】 計算 割に合わない
股座【またくら】 股間 股の付根 ②陰部
まつぼり【まつべり】 集め纏める ②へそくり
忠実【まめか】 真面目 実直 誠実
見たむなし【みたむなか みっともなか】 見たくもない
無惨気 無慙気【むぞげ むぞなげ】 不憫だ 痛ましい 可哀相
飯次【めしつぎ】 飯櫃 炊飯ジャー
悶ゆ【もだゆる】 煩悶する 悩み苦しむ ②急ぐ 早くする
回らん【もたらん】 回転しない ②口が回らない
舫ひ【もやー もやい】 催合う 共同 共有 助け合う
焼き処 灸【やあと】 お灸
湯文字【ゆもじ】 (女御言葉) 腰巻き 和装下着 浴衣
横座【よこざ】 上座 横敷物のある座席
夜更り【よさり】 夜 晩 ※「さり」はやって来るの意
様相悪し【よそわしか】 不潔だ 汚い
婚ひ【よばい よびゃー】 夜中に女部屋に忍び込む性風習

わたまし わたまし
移徒・渡座【わたまし】 落成祝い 新居披露
我【わり】 ②お前〔あなた〕

珍語万語 ※珍しいことばがいっぱい

あくわーんと しとる（口を大きく開けている） ※擬態語
あくっちゃく（口を大きく開ける） あくっちゃけ（命令形）
あしふみざきん なか（踏み入る隙間がない）
あすーっさるく（遊んで回る） さるく古語〔去来〕
あすっぎゃどん けーなー（遊びにでもおいで） ※…どん（…でも）
あすびぎゃ くるけん（遊びに行きますから）
あすびほうくる（遊び惚ける 遊びに夢中になる）
あたんなる 古語〔徒なる〕《大江》 あちゃんなる あてんなる《五和》（邪魔になる）
あっちこっち（あちらこちら） あっちゃこっち（反対に あべこべに）
あとじえき【後塞ぎ】（部屋を出た後に戸を閉めること）
あぶにゃー うっちんとこじゃった（危うく死ぬところだった） ※うっ（接頭語）
あぶらうる（仕事をさぼる人） 髪あぶらうっどん（講釈が長い販売人）
あぶらすむる あぶらすましどん（精油する 精油業） ※どん（殿：人称代名詞）
あゆっけ あゆぶ 古語〔歩ぶ〕（歩いて来い 歩く） ※け（来い）
あんし こんし（あの人・あの衆） ※天草んし
あんつれんとん とんと つれんとん（あの種のものが滅多に釣れないのだが）
いいいい（言いながら 言いつつ） 「これが最後で言いいい、吸いよらす」
※繰り返しことば：連続強調 …しいしい（しながら …しつつ）
いいならん《上島 御所浦》（言う訳にいかない 言えない）「親にゃ、いいならん」
いうともなか 古語〔言いともなし〕（言いたくもない）
※しょうことなし（したくもない）みたむなか（見たくもない）
いが《坂瀬川》《長崎》（赤ちゃん 乳幼児）
いかす いかっす いかる 上代敬語〔行かしやる 行きやる〕
（「行く」の敬語 お行きになる）
いきやっしゅう 古語〔行きやしゅう〕（行きましよう）
いさな《上島 御所浦 倉岳》（家へ 拙宅へ 自宅へ）※〔え〕の省略
※えーさん えーさね（家へ 拙宅へ 自宅へ）《本渡》 ※〔い〕の省略
いたいちり（行ったまま） 「行ったまま 音沙汰なか」
いたぐらめ 古語（胡坐 案坐 対語：正座）
いたちくう《佐伊津》（行って来ましよう） ※さるくったー（歩き回るのだよ）
いどりがく（汚れの跡が付いている）
いっかかって かたづくる（総動員で片付ける） ※類語 いっかかる（降り掛かる）
いっさんがけ（一目散に駆ける・走る）
いっちゃん（一つも 全く）
※…こられんとん（滅多に来ないが） …すかん（嫌だ きらい）
いっぴゃ こっぴゃ（いっぱい 沢山 随分 多く） ※連続強調
いらす 上代敬語〔要らす〕（「要る」の敬語 ※いらりーろ いりーろ（要るだろうか）
いりめ 古語〔入り目〕（必要経費 出費）
いれっくれ らりいろ いれ らりーろ（入れてくれるだろうか）
いわす いわっす 上代敬語語〔言わっしやる〕（「言う」の敬語 仰る）

いんね 古語〔否〕(否 いいえ 反対 違う：否定語)
うけずむ (息詰む 呼吸を止めて力む)
うさんか うさんくさか うさんなか 古語【胡散臭い】(怪しい 疑わしい)《ポ》
うしのうた (無くした 紛失した) うしてた《御所浦》
うったつ〔打ち発つ〕 身支度する 着飾る 旅支度する
うりー 古語〔潤い〕(慈雨 湿気 湿度)
※うりよくい (雨で休業する) 「よかうりーでござす」
うろんころん 古語【胡乱】(怪しい 疑わしい 怪しい素振りでうろつく)
うん 古語【己】(汝 お前〔あなた〕の俗語) ※本来は〔自分〕のこと
うんずり めんずり (次第に 徐々に その内に) ※連続強調
うんぶくるる おんぶくるる (溺れる)
えーくれー 古語〔酔ひ喰らひ〕 えくれー (酔っ払い)
※えーくろた えちろーた (酔っばらった)
えぐい えぐか《京 ポ》(野菜の灰汁で喉がいがつく)
えしれん 古語【得知れぬ】(得たい知れない 根拠がない)
えすか えすか えすらしか 古語〔えすい〕
(恐ろしい 怖い 不気味だ 意外だ とんでもない 大袈裟だ)
えせわるう 古語【似非笑う】(せせら笑う 嘲り笑う) ※似非(似て非なるもの)
えだ (四肢 腕 肩) ※えだん いたか (肢が痛い 腕や肩が痛い)
えっとんこたなか (大したことはない) ※「雨も えっとんこたなか」
おうこ おうこぼう 古語【 杵 】 横衡棒 天秤棒 担い棒《京》
おうしあぐる おうす 古語【生し上ぐ】(力を尽くして一人前に育て上げる 養育)
おうど 古語〔横道〕 おうどっこ (悪戯 悪事 意地悪)
おうなく 古語【仰のく】(仰向く 上向く)
おかしか 古語【可笑し】(可笑しい 滑稽 面白い)
※同音異語 おかしか 悪い 拙い 醜い 怪しい 変だ
おすーだ おすむ《ポ》おそむ (目を覚ました) ※「赤ちゃんがおすーだ」
おとととととたー (奪っているのだよ) ※「猫んイワシはおとととととたー」
おっどん わっどん (俺たち 君たち) ※おんも わんも (俺も お前も)
おとろしか 古語【恐ろし】《京》(恐ろしい 怖い)
おめく 古語【喚く】(大声を出す 叫ぶ 唸る)《ポ 京》
おらす おらっす 上代敬語【坐す】(〔居る 在る 来る〕の敬語 いらっしやる)
おらる 上代敬語【お入り在る おりやる】(〔居る 在る〕の敬語 いらっしやる)
おらっさん 上代敬語【坐ねぬ】(いらっしやらない 不在)
おりげ わりげ おっげ わっげ (私の家 拙宅・あなたの家) ※おっげん (家の)
おりゃわりゃ われーわりゃ わりゃわりゃちゅうもねわりゃ わりもわりゃ
おれーわりゃ わりゃわりゃちゅわじゃ わりゃ
(俺はお前にわりゃわりゃというのだからお前も俺にわりゃわりゃと言えよ)
おろいか おろよか 古語【おろ良し】 (良くない 粗末 粗雑)
かーん かんちーた (蚊が刺した) ※かんちーた (噛みついた) ※蚊には歯がない
かき くーけー (柿を食べますか) くおー (食べます)
かじえぐすんの かじえひーとる (薬の薬効がなくなっている)
かっ (柿) ※「かっ くわんかん」(柿を食べませんか) ※吃音
かっとしゅう (且つ且つ 次々に)
がまじゃーて きばる〔我慢出して気張る〕(精を出して働く)
きいっ くて (聞いて来るから)
きくどもん (利くだろうね 利くと思うよ) ※同音異語 聞くどもん
きたろうば (来たならば) きたろうもん (来たのでしょうか)

きっ とごゆんな (悪巫山戯するな) ※きっ (接頭語)
きばらす ばいな きばんなすか きばんなっせ (気張る 勢が出ますね)
きゃーほりぎゃいかんきゃー けーほりげーいかんけー 《五和》「貝掘りに行かないか」
きゃーしんみゃー【返し前】(裏表 裏返し) けーしんめー 《五和》
くいーくいー さるくな (食べ歩くな) くーっくー (食べてこよう)
ぐーらしか ぐらしか (愚かしい 可愛そうだ)
くたびれ くたぶれ 古語〔草臥れ〕 (疲れ) 《京・ボ》 「くたぶれ じゃんした」
くちがむ (口やかましくがみがみ叱る)
くちなわ 古語【朽ち縄】(蛇) ※えぐちなわ [家朽ち縄] (アオダイショウ)
くっ ちゃろかい くりーろ (来るだろうか) ※吃音
くっだっど くだっどもん くだる 《竜ヶ岳》(下さるだろう) ※吃音
こけけ ここさんけ こっちゃんけ (ここに来い)
ごちゃ (五体：胴体と四肢) 「ごちゃん いたか」(五体が痛い 背中が痛い)
こん くらしゃー (このように暗いのに)
こんてんとん とんと とれんとん (この種の物が殆ど捕れないのだが)
こんや こんや こんやだ こんや (今夜にでも来ませんか)
さかさみゃなす〔逆様 逆さ前〕(逆さにする 天地逆にする)
さぎゃっけ (探して来い) さげっけ 《五和》
ささっとっと さい (刺さっているのだよ) ※…さい (…だよ)
さしより (差当り 取敢えず) 「さしよりナマビールばくれ」
させんせん せん (させてくれないからしない) 「任せなっせ」
さっさ さっさんせん じゃん (手早く なさらないから ですよ)
さっしーろ さりーろ (なさるだろうか)
さばく【捌く】(分別処理する 調理 解きほぐす ②髪を梳かす 髪を梳く) 《京》
さばけとる (処理能力が優れている 敏腕だ) 「彼は捌けとる」
さりく さるく 古語〔去来〕(歩き回る) さるくったー (歩き回るのですよ) 《佐》
さんくりかえる (三転 転げ回る 転倒する)
しーとる (好きだ) ※同音異義語 しーとる (隙間がある)
しーえん【為得ぬ】 しーきらん (出来ない：できん でけん)
しーならん (出来ない してはいけない する訳にいかない) 《上島》
しーまい 《牛深》しーまえ (しなければならぬ：任務 当番 役目)
した もねーろ (した方が よいものだろうか)
じゃからじゃま じゃらじゃま (違くないよ：確信)
じゃかるかい (相違ないと思う そうだと思う) 「雨じゃかるかい」
しゃっしゃる〔差し遣る〕(差し出す 手足を延ばす)
しゃなべなっせ (足を 差し延ばして 楽にしてください) 《新和》
しゅうーかい しゅうだ しゅうわい (しましろう)
※対語 しゅうみゃーだ (しないことに しろう) しゅうめーだ 《五和・五和》
しゅうれ (吸え) 「骨の髄までしゅうれ」
ジョンが ごたっと じゃん (幼い子どもみただよ 幼稚だよ) 《苓北》
※ジョン (少年 坊や) 《オランダ》 ※同音異義語 …じゃん (…だもの)
しんのしまり〔真の締まり〕(最終的に)
すーした (空気が抜け) すーする (空気が抜ける) ※擬音語
すーすーする せん せけ (隙間風が入るから戸を閉めろ：塞く) ※擬音語
すーり (沿って 伝って) 道すーり (道伝いに)
すーん する (体温が急に下がる) ※擬態語

すっちゃん (するのだろうか) すっちゃん (するのではないだろうか)
すっちゃん (するんだ)
すっどもん すっ ちゃろもん (するのでしょうか)
ずるずる づる (次々とする) ※擬音語
するせん (しますから するので) するせんや 《二江》 するっせな 《佐伊津》
するっばい するっばな するっぺー (しますよ) 《佐伊津》
するみゃーもん (しないでしようよ) するめーもん 《五和・佐伊津》
せーて せかん (急ぐが緊急ではない)
せせらせられん せせる 《ポ》 (触れさせる訳にいかない)
せっくわん くわんかん (赤飯を食べないか) 《島子》
せにゃん せんぱん (しなければならぬ) ※類似語 しいまえ しいまい 《牛深》
せんちゃろもん せんどもん (しないでしよう)
せんばえ せんもん (しないよ)
そびく 古語 [しょびく・しょっぴく] そろびく (引きずる) そびっこむ (引きづり込む)
ぞん そろびく (着物の裾や帯などをだらしなく引きずる) ※擬態語
たたった たー たたとっと たー (崇っているのだ)
だんだん なー (有り難うね) ※類似語 ちょうじょう [重畳] ※おおきに なー
ちーっくれ (注いで下さい)
ちーっけ (同行しなさい 付いて来い)
ちちー ちーとと (父に付き添っているのです)
ちーん ちーとる (血が付いている)
ちゃんくわら (安物不良品)
ちゅうり こうり (ちょっとやそとでは 容易には 簡単には) 「ちゅりこーり捌けん」
ちよっくら ちよーと (短兵急に性急に)
ちんかジョン と とんかジョン (小さな坊やと 大きい坊や)
※ジョン 《オ》 少年 坊や
ちんかも (仲睦まじい関係) ちんぐう (幼馴染) 《韓国》
ちんぷん かんぷん [珍紛漢紛] (ことばが通じない 訳が分からない)
チンプトン カンプトン 《中国》の転
つこきゃーた つこきゃーた (落としたり)
つっくわんげた (抜けた) ※「下駄ンつっくわんげた」
つったとんな な (呆然と立ったままでいるな) ※チコちゃんに叱られる
つっぱった じゃがや (海に落ちたのだ) 《牛深》
つらなし [面無し] (照れ屋 恥ずかしがり屋)
つんつらかず (摘み散らす)
つんつるてん (つるつるに禿げた様子)
つんなもだ (連れ立って行こう)
つんぶるう (振り解く 振り払う) 「外で つんぶるっけ」
でーく (大工) でーこん (大根) ※「だ」の転音 でゃーく でゃーこん
てーげてーげ [大概] 「てーげてーげで よかてー」 (大雑把でよいのに)
「た」の転音
てんぐどり 梵語 [伝供] (手渡しで供える)
とうかとな とうかっかな とうかんな (遠いのですか)
とうつ たあつ (一つ二つ) とうり たーり (一人二人) ※ [ひ・ふ] 抜き
どうろ こうろ (どうにかこうにか どうやら)
とぜんなか 古語 [徒然ない] (暇で退屈 寂しい) とじんなか 《牛深》

とつけむなか (途轍もない 途方もない とんでもない 意外だ 思い掛けない)

ととととー とととと (取っているのですか 取っています)

とととともととと (取っているとでも思っているのか)

ととこれ かたまれ (一カ所に集まれ 集合)

どぼくる (先端が潰れる) ※「鉛筆ん どぼくれた」

どもこも どんこん (どうにもこうにも 如何にしても)

とんちんかん〔頓珍漢〕(ちぐはぐ 辻褄が合わない 見当違い)

※擬音語 鍛冶屋

とんと ^なとれんとん (全く穫れないが)

なう〔^な緇う〕(撚る 撚りかける) なわ のうた (縄を緇った)

なかなか なかな (案外と無いね)

なかた なか (何でもある 何でも揃う) ※二重否定=肯定)

なすくる (塗りつける 擦りつける)

なにしてーん (おやまあ)《大多尾》

なんかか (もたれ掛かる ②頼りにする) ※類似語 **ねんか**か

なんかた なかかな (長いのは 無いですか)

なんか なかかな (何か 無いか)

なんぎやる (投げ遣る) **なんぎゃ**とととたー (投げ遣っているのだ)

なんじゃ かんじゃ (何や彼や)

なんしゅうに なんすっか なんするか (何にもならない 無駄だ 不要だ)

なんなんな なんなん かな (何々 ですか)

なんも かんも (何も 彼も)

ぬーだろ にゅう (飲んだら寝よう 飲んで眠ろう)《五和》 のーだろ にゅう

ぬーどっど (酒を飲んでるな)《五和》 のーどっど

ぬーん みゅうだ (飲んで みよう)《五和》 のーん みゅうだ

ぬしだ〔お主達は〕(あなた方は 君達は)複数 ※同義語 のしだ わっだ

ぬしゃ〔お主は〕(あなたは 君は) ※同義語 のしゃ わりゃ

ねぎる ねぎとる (睨み付けている)《手野》

ねまる (腐敗する ②寝る)《日ポ》

ねんかか (背もたれる 寄りかかる もたれ掛かる)

のさっとる (幸運だ 授かっている 宿命を負っている)

のさり のさる (授かり 天のめぐみ 幸運 宿命 因果応報)

「幸も不幸ものさり」

のさん のす こっじゃか (耐えられない 我慢できない ダメージを受ける)

のす〔伸ばす〕(殴り倒す 気絶させる)

のんげ (我家 拙宅) **んのんげ**